

◆ 巻頭言

女性科学者のキャリアと母親業の
二足のわらじ

高橋 まさえ

女性研究者支援が着々と実行に移されている現状に、女性科学者の環境が改善されてきたと実感する一方で、どこか、少し違和感を覚える。女性が科学者としてキャリアを積みながら、子育てをしていくための望ましい社会体系づくりは新たな段階に向かう必要がある。

私は、3人の子どもと夫の5人家族で1つ屋根の下で暮らす、どこにでもいる平凡な母親だ。職業は大学の准教授。夫の勤務地に職を探し、妻として母として暮らしを支えながら、外では、業績第一主義の男性社会で荒波にもまれる日々を過ごす。子育て支援のない時代にどのようにして二足のわらじを手に入れたのか。ふり返れば、結果として子どもが幼いときは自由の利くポストク、少し手がかからなくなったときは大学の附置研究所の教員、そして今は教育義務の負担が大きい大学の学部の教員という経歴をたどっていた。子育てでは、慣習にとらわれず、目的遂行のための環境づくりを積極的に行ってきた。そこには、望めば協力してくれる包容力のある地域社会があったことに感謝している。

女性の社会進出に、子育ては手かせ足かせであるかのように言われることがあるが、それは違う。研究を続けながら、私はかけがえのない家族も手に入れた。夫と子どもを支えてきたつもりでいたが、逆に、彼らが私の心の支えになっている。気がつくと、「母ちゃん頑張ってる」と声援をくれる、私より背が高くなった子ども達がいる。この存在は大きい。

大切なものを見失わずに社会進出を遂げる聡明さが女性研究者に求められる。そして、それを実現できる仕組みをより真剣に模索することが必要である。女性科学者が育てた子ども達も次世代を担うことを念頭において、長いスパンで考えた社会体系づくりを願う。



PROFILE

高橋 まさえ
(たかはし まさえ)

東北大学大学院農学研究科准教授。東北大学理学部で物理学を専攻し学位を取得。日本学術振興会特別研究員、理化学研究所フロンティア研究員、東北大学金属材料研究所助手、助教授、准教授を経て、2010年3月より現職。専門は計算材料科学。2010年女性科学者の会奨励賞受賞。著書に『有機量子化学』（共著、朝倉書店）。